

第1章 中学生の学習行動

菊地 栄治

(国立教育研究所研究員)

項目	1980年	1985年	1990年	1995年
1. 1	0.05	0.10	0.15	0.20
2. 1	0.10	0.15	0.20	0.25
3. 1	0.15	0.20	0.25	0.30
4. 1	0.20	0.25	0.30	0.35
5. 1	0.25	0.30	0.35	0.40
6. 1	0.30	0.35	0.40	0.45
7. 1	0.35	0.40	0.45	0.50
8. 1	0.40	0.45	0.50	0.55
9. 1	0.45	0.50	0.55	0.60
10. 1	0.50	0.55	0.60	0.65
11. 1	0.55	0.60	0.65	0.70
12. 1	0.60	0.65	0.70	0.75
13. 1	0.65	0.70	0.75	0.80
14. 1	0.70	0.75	0.80	0.85
15. 1	0.75	0.80	0.85	0.90
16. 1	0.80	0.85	0.90	0.95
17. 1	0.85	0.90	0.95	1.00
18. 1	0.90	0.95	1.00	1.05
19. 1	0.95	1.00	1.05	1.10
20. 1	1.00	1.05	1.10	1.15

第1節 学校での授業について

1. 好きな教科・嫌いな教科

【中学生の好きな教科ベスト3は、①体育(「とても好き」+「まあ好き」=65.1%)、②理科(52.8%)、③美術(51.0%)。男子は理科系の教科や体育・社会を好み、女子は芸術系の教科や国語を好む傾向がある。成績の自己評価が高いほど、「主要」教科を「好き」と答える者が多い。】(表1-1、図1-1)

Q2

あなたの学校での勉強についてうかがいます。

A. あなたは、次の教科の勉強がどのくらい好きですか。1)~9)の教科のそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。

中学生は、教科の勉強についてどのように考えているのだろうか。今回の調査では、中学生の教科観を、どのくらい好きか、どのくらい理解しているか、どんな教科をがんばって勉強したいと思っているか、という3つの側面からとらえてみた。

まず、中学生の好きな教科のナンバー1は「体育」で、全体の65.1%が「とても好き」もしくは「まあ好き」と答えた。以下、「理科」(52.8%)と「美術」(51.0%)が続いている。他の6教科も40%台となっており、極端に敬遠されている教科はない。逆にいえば、過半数の中学生が「好き」と答える教科がわずか3教科にとどまっているとみることができる。

表1-1 好きな教科

	第1回 (2544)	第2回 (2755)	男子 (1432)	女子 (1315)
国語	38.2	41.0	36.5	45.8
社会	49.2	42.1	49.8	33.6
数学	37.2	45.4	53.6	36.6
理科	41.6	52.8	59.1	45.9
英語	38.1	43.3	41.3	45.7
音楽	48.0	45.6	31.6	60.9
美術	46.3	51.0	44.3	58.3
体育	61.4	65.1	73.1	56.2
技術・家庭	47.8	46.1	51.0	40.7

注1) 数値は「とても好き」と「まあ好き」の合計。
注2) ()内はサンプル数。

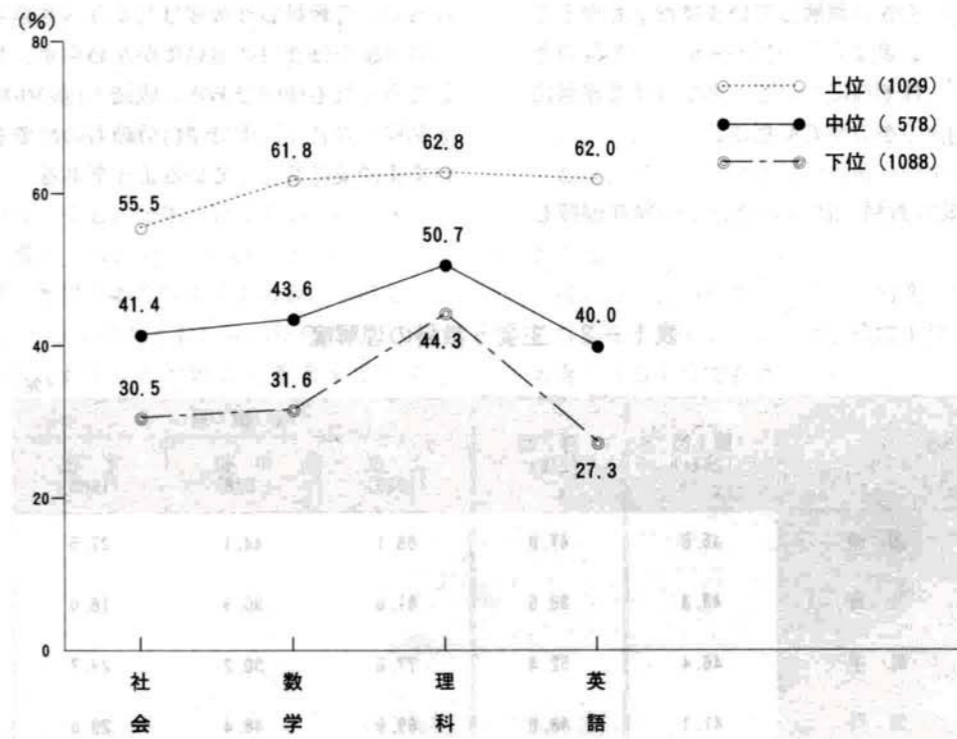
前回(第1回調査)と比べると、「理科」の伸びが目立ち、1割以上も率を伸ばしている。「数学」も8ポイント程度増えており、理数系離れは中学校段階では「好転」しているようである。大きく人気を失っている教科はなく、「社会」で7ポイント程度低くなっているのが目立つ程度である。

性別にみると、極端な男女差があることがわかる。男子が比較的好むのは「数学」(男女差=17.0%)、「体育」(16.9%)、「社会」(16.2%)、「理科」(13.2%)、「技術・家庭」(10.3%)であり、女子は「音楽」(29.3%)、

「美術」(14.0%)、「国語」(9.3%)を好む傾向がある。理数系・体育系・芸術系の教科の好悪の男女差は、高校以降の進路パターンを反映する形となっている。

成績の自己評価別にみると、「社会」「数学」「理科」「英語」という「国語」を除く「主要科目」で、成績によって好みが変わった。特に、「英語」と「数学」で顕著な差がみられた。これは、中学生の「成績の自己評価」がこれらの教科についての自己評価の影響を少なからず受けていることを物語っている。

図1-1 成績別にみた好きな教科



注1) 数値は「とても好き」と「まあ好き」の合計。
注2) ()内はサンプル数。

2. 主要5教科の理解度

【授業を「ほとんどわかっている」「70%くらいわかっている」のは、「数学」「理科」「国語」「英語」については半数程度、「社会」にいたっては3分の1強にとどまっている。いずれの教科についても、成績の自己評価が高い者ほど、授業の理解度が高い。理数系の教科を中心に理解度が若干高まっているものの、成績下位者の8割程度は十分に授業内容を理解しないまま過ごしている。】(表1-2)

Q2

あなたの学校での勉強についてうかがいます。

B. それでは、学校の授業をどのくらい理解していますか(わかっていますか)。1)~5)の教科のそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。

「主要5教科」について、どの程度理解し

ているかを尋ねてみた。「ほとんどわかっている」と「70%くらいわかっている」を合計してみると、「数学」(52.4%)、「理科」(48.9%)、「国語」(47.0%)、「英語」(46.0%)、「社会」(38.5%)となった。

前回と比較すると、「数学」「理科」「英語」で6~7ポイント程度増加したことがわかる。ここでも、理数系の「好転」傾向がみられる。とはいえ、すでに中学生の段階で半数程度は学習内容を十分に消化しきれないままであり、「社会」にいたっては3分の2に上っている。

成績の自己評価別にみると、成績が上位になるほど各教科の理解度は高くなっている。この成績差は教科の違いにかかわらず、共通してみられる傾向である。成績下位の生徒の8割程度の者は、十分に自分のものにできないまま授業に参加しているようである。

表1-2 主要5教科の理解度

	第1回 (2544)	第2回 (2755)	成績別		
			上位 (1029)	中位 (578)	下位 (1088)
国語	45.8	47.0	69.1	44.1	27.5
社会	43.3	38.5	61.6	36.9	18.0
数学	46.4	52.4	77.8	50.2	29.7
理科	41.1	48.9	69.6	48.4	29.5
英語	39.3	46.0	73.6	45.0	20.7

注1) 数値は「ほとんどわかっている」と「70%くらいわかっている」の合計。
注2) ()内はサンプル数。

3. 授業の受け方

【全体的には、ノートをとるなどのまじめな姿勢が目立つが、「近くの人とおしゃべりする」など適当に息抜きをしている者も少なくない。とはいえ、前回に比べて、授業に積極的な姿勢を示す者が増加している。なお、こうした授業への姿勢は、成績の自己評価とかなり深くかかわっている。】(図1-2)

Q4

あなたの授業中のようすについてうかがいます。1)~10)のそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。

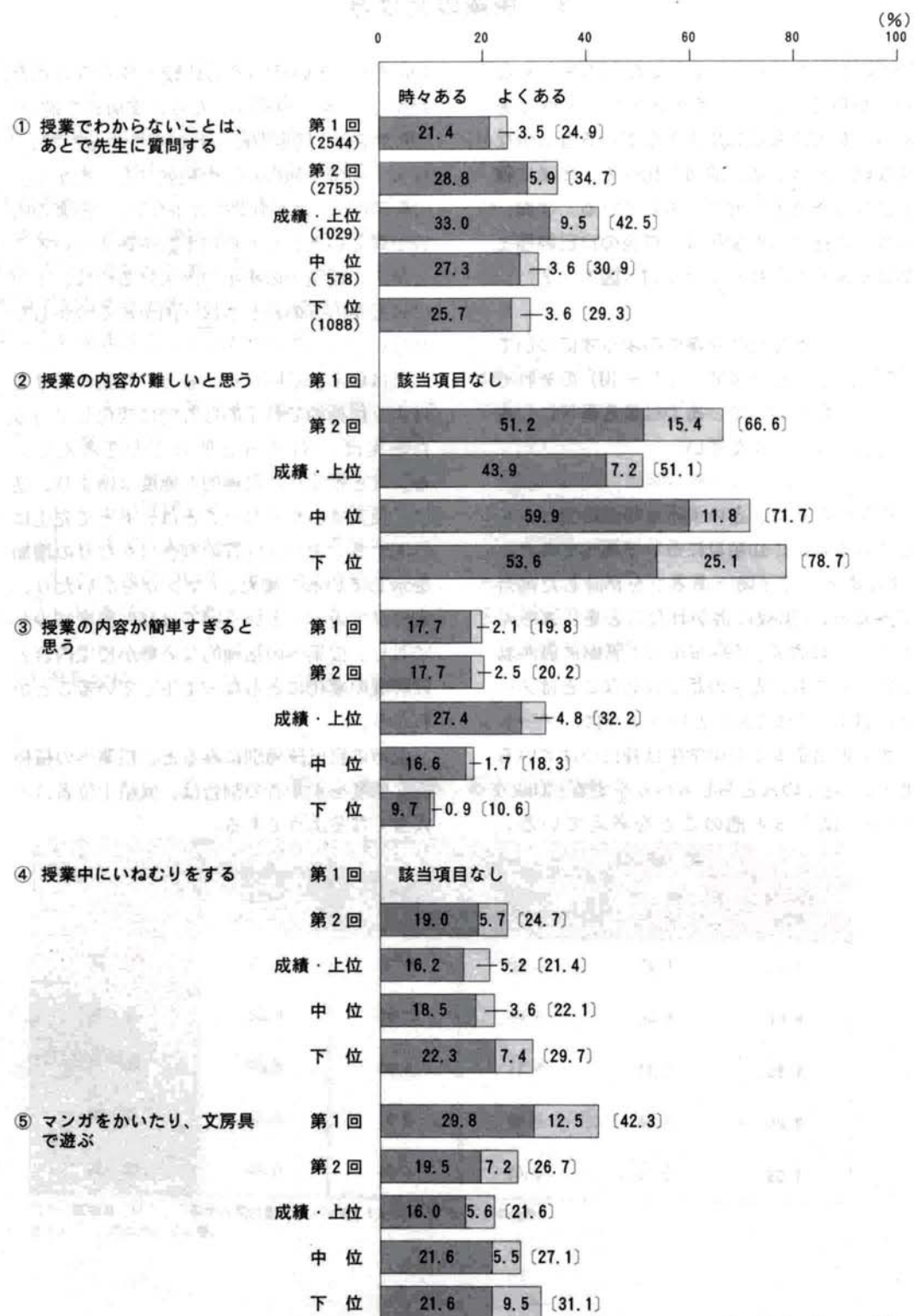
中学生たちは、どのような授業の受け方をしているのか。10項目について調べてみた。「よくある」と「時々ある」を合計した割合でみると、「黒板に書かれたことを、きちんとノートに書く」(94.9%)、「黒板に書かれていなくても、先生の話で大切なことはノートに書く」(53.1%)というように、ノートに書く習慣を多くの中学生は身につけている。他方、「近くの人とおしゃべりする」(60.0%)や「ぼうっと他のことを考えている」

(50.4%)という回答も比較的多くみられた。ただし、「マンガをかいたり、文房具で遊ぶ」(26.7%)、「授業中にいねむりをする」(24.7%)、「内職(他の科目の勉強など)をする」(16.5%)という中学生は少ない。「授業の内容が難しいと思う」が過半数を数えていることから、授業への集中力が欠けるのは、1つには授業内容の難しさに一因があるのかもしれない。

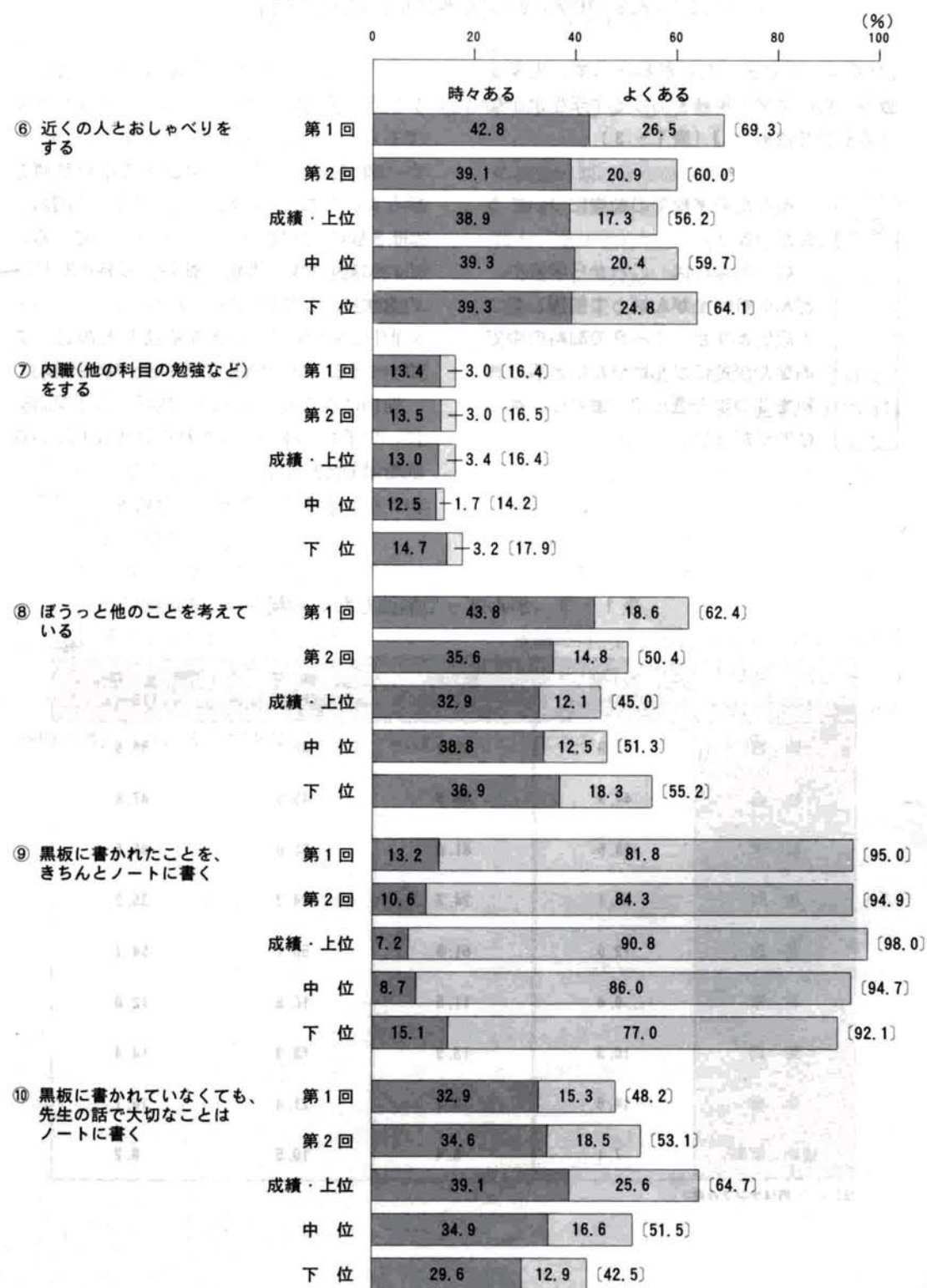
とはいえ、前回に比べると、授業の受け方はより積極的で肯定的な方向に変化している。たとえば、「ぼうっと他のことを考えている」など授業への消極的な態度は薄まり、逆に「授業でわからないことは、あとで先生に質問する」という回答の割合はかなりの増加を示している。また、「マンガをかいたり、文房具で遊ぶ」という回答は15%程度減少しており、授業への積極的な姿勢が授業内容と理解度の変化にともなって生じていることがわかる。

成績の自己評価別にみると、授業への積極的な態度を示す者の割合は、成績上位者ほど大きくなるようである。

図1-2 授業の受け方



※ 次ページへつづく



注1) () 内の数値は「よくある」と「時々ある」の合計。
注2) () 内はサンプル数。

4. がんばって勉強したい教科

【がんばって勉強したい教科として、主要5教科、特に数学と英語をあげる中学生がかなりの割合を占めた。】(表1-3)

Q2

あなたの学校での勉強についてうかがいます。

C. あなたは、これから学校で、どんな教科をがんばって勉強したいと思いますか。1~9の教科の中で、あなたが特にがんばりたいと思う教科を3つまで選んで、番号に○をつけてください。

中学生が「これからがんばって勉強したい」と考えている教科は何か。3つまで選んでもらった結果によると、「英語」(61.6%)と「数学」(61.0%)が際立って高い数値を示した。これに、「社会」(46.5%)、「国語」(35.9%)、「理科」(34.7%)と続いている。これに対して、「主要5教科」以外の教科への意欲はかなり乏しいようである。

前回と比べて、大きく変化したのは「英語」でおよそ10ポイントの減少であった。

性別にみると、女子が「数学」と「英語」に、男子が「体育」にそれぞれ比較的高い意欲を示している。

表1-3 がんばって勉強したい教科

	第1回 (2544)	第2回 (2755)	男子 (1432)	女子 (1315)
国語	37.9	35.9	36.1	35.9
社会	44.3	46.5	45.5	47.6
数学	63.6	61.0	56.0	66.5
理科	33.1	34.7	34.2	35.2
英語	72.0	61.6	58.7	64.7
音楽	9.6	11.8	10.8	12.8
美術	10.3	13.9	13.3	14.4
体育	14.5	19.2	21.4	16.7
技術・家庭	7.1	8.4	10.5	6.2

注) () 内はサンプル数。